

盛岡バッハ・カンタータ・フェライン 演奏会
～バッハ、シュッツ、メンデルスゾーンの名曲たち～



「主に向かって新しき歌を歌え」(詩篇第98番)

Singet dem Herrn ein neues Lied

主催：盛岡バッハ・カンタータ・フェライン

後援：岩手県，盛岡市教育委員会，盛岡市文化振興事業団
岩手県合唱連盟，岩手日独協会

ご あ い さ つ

盛岡バッハ・カンタータ・フェライン

代表 兼 演奏会実行委員会チーフマネージャー

茂木 容子

本日はご来場いただきありがとうございます。会員一同、心より御礼を申し上げます。

私共は、昨年の創立40周年では「ヨハネ受難曲」を演奏いたしました。今年は、「リスタート」という気持ちで、今回の演奏会に向け練習を重ねて今日を迎えました。久しぶりのアカペラそして、剣持清之さんのオルガンとの共演の、知られざる名曲たちのプログラムです。詳しくは曲目と楽曲解説のページをご覧くださいませ。

ひとくちに40周年と言っても、合唱団も人生と同じく変遷があります。創立した頃は、20人ほどのメンバーで、佐々木正利先生の手とり足とりのご指導のもと、慣れないドイツ語と、美しいけれど難しいバッハのカンタータを無我夢中で練習していました。佐々木先生が岩手大学で教鞭を執られるようになって、仲間になってくれる学生さんも増え、充実したハーモニーと音楽を楽しめるようになりました。そして、ヘルムート・ヴィンシャーマン先生をはじめとする数々のマエストロとの共演が実現して、幸せな音楽経験を持つ事ができたのです。その後は、佐々木先生ご自身の指揮での「パウロ」「ヨハネ受難曲」演奏会を経て、本日の演奏会があり、今から更に佐々木先生の指揮で演奏会を開催できるようになっていくことを実感しております。会員からは、まだ佐々木先生自身の指揮で歌ったことのない「マタイ受難曲」に取り組んでみたいという声も上がっています。実現は、そう易しいものではないと思いますが、強く望みを持ち、努力すれば叶うものではないでしょうか。合唱団は、その時々状況によってメンバーもその人数も変わりますが、変わらないのは、佐々木先生の指導のもと「音楽」を追い求める会員の気持ちと姿勢だと思います。私共はアマチュアではありますが、その事に甘えず、それぞれの持てる力を最大限発揮できるよう、日々精進する事を心がけています。

さて、本日のプログラムの柱は、「主に向かって新しき歌を歌え」という詩篇を、H.シュッツ、F.メンデルスゾーン、J.S.バッハの3人のドイツの作曲家が作った曲を演奏することです。「新しき歌を歌う」とはどんなことでしょうか？キリスト教の信仰を持たない私ですが、私なりに考えてみますと、新しい気持ちで喜びと愛に満ちた歌を歌うこと、常に新しい気持ちを持って生きていくことではないか、と思います。

そのような気持ちで、日々練習を重ね、演奏会を開催し、聴いてくださる皆さまと音楽を通して幸せな時間を共有すること、それが私共合唱団皆の喜びです。

年度の変わり目のお忙しい中おいでくださった皆さまが、満ち足りる時間を過ごしていただけますよう心から願っております。最後までどうぞお聴きくださいませ。

曲 目

ハインリッヒ・シュッツ作曲

1. “Lobe den Herrn, meine Seele” Der103. Psalm

「わたしの魂よ、主をたたえよ」

-独唱-

ソプラノ 赤塚温子 アルト 在原泉 テノール 西野真史 バス 小原一穂

2. “Ich hebe meine Augen zu den Bergen” Der121. Psalm

「目を上げて、わたしは山々を仰ぐ」

-独唱-

ソプラノ 佐藤澄江 アルト 田口千紗都 テノール 伊藤陽平 バス 佐藤和久

3. “Singet dem Herrn ein neues Lied” Der98. Psalm

「主に向かって新しき歌を歌え」

フェリックス・メンデルスゾーン・バルトルディ作曲

4. “Denn er hat seinen Engeln befohlen” Der91. Psalm

「主は御使いに命じて」

5. “Warum toben die Heiden” Der2. Psalm

「なにゆえ、国々は騒ぎ立ち」

-独唱-

ソプラノⅠ 赤塚温子 ソプラノⅡ 佐藤澄江 アルトⅠ 在原泉 アルトⅡ 田口千紗都
テノールⅠ 西野真史 テノールⅡ 伊藤陽平 バスⅠ 小原一穂 バスⅡ 佐藤和久

6. “Kyrie eleison” “Ehre sei Gott in der Höhe”

主よ、憐れみたまえ／いと高きところには神に栄光が

-独唱-

テノール先唱 伊藤陽平

ソプラノ 藤原優花 アルト 本田奏子 テノール 田邊尚人 バス 小菅悠樹

7. “Singet dem Herrn ein neues Lied” Der98. Psalm

「主に向かって新しき歌を歌え」

-独唱-

ソプラノ 赤塚温子 アルト 在原泉 テノール 西野真史 バス 鈴木集、芳賀郁夫

～休憩～

ヨハン・ゼバスティアン・バッハ作曲

8. “Lobet den Herrn, alle Heiden” BWV230

「主を頌めまつれ、もろもろの異邦人よ」

9. “Fürchte dich nicht, ich bin bei dir” BWV228

「恐るるなかれ、われ汝とともにあり」

10. “Singet dem Herrn ein neues Lied” BWV225

「主に向かって新しき歌を歌え」

-アリア部独唱-

ソプラノ 赤塚温子 アルト 田口千紗都 テノール 伊藤陽平 バス 小菅悠樹

指揮

佐々木 正利

東京芸術大学声楽科卒業。同大学院修士及び博士後期課程修了。
故須賀靖元（声楽）、故服部幸三（音楽学）、小林道夫（演奏法）、森
品彦（発声法）、故松本民之助（作曲）、故岳藤豪希（宗教音楽）の各
氏に師事。

1973年にバッハ「クリスマス・オラトリオ」の福音史家で楽壇デ
ビューして以来、バッハをはじめとする宗教音楽のスペシャリストとし
て揺るぎない地位を得ている。1979年シュトゥットガルトに渡り
L.フィッシャー教授に師事。1980年第6回ライプツィヒ国際バッハコ
ンクール声楽部門第5位入賞。同年より1982年までデットモルト北西
ドイツ音楽大学に学び、H.クレッチマール教授に師事。在独中は欧州
各国の演奏会に招かれ、特に1980年ウィーン楽友協会ホールでのマタイ
受難曲では『若き日のP.シュライヤー』と新聞各紙で絶賛される。

帰国後もライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団、ベルリン交響楽団、
国立ブカレスト交響楽団、NHK交響楽団等、世界、日本の著名オーケ
ストラのソリストとして度々起用され、K.マズア、H.シュタイン、H.ブロムシュテット、小澤征爾、R.シャイー
等、世界を代表する数々の指揮者と共演。また世界的宗教音楽の名指揮者であるH.リリング、H.J.ロッチュ、
M.コルボ、R.ヤコブス等率いる、シュトゥットガルト・バッハ合奏団、ゲヒンゲン聖歌隊、聖トマス教会聖歌
隊、RIAS室内合唱団等の演奏会に度々出演し、高い評価を受けている。

特に世界的バッハ指揮者H.ヴィンシャーマン率いるドイツ・バッハゾリステン演奏会には、ソリストとして
だけでなく自身が育てた合唱団も度々共演し、その歌唱力、合唱指導力によって絶大な信頼を勝ち得ている。

1979年、1985年ザルツブルグ音楽祭に招聘され、モーツァルト管弦楽団、ベルリン聖ヘドヴィヒ聖歌隊と、
バッハ「マニフィカート」、モーツァルト「戴冠ミサ」等を共演し好評を博した。

在独中オペラでは、ヴェストファーレン州立歌劇場等で、『コジ・ファン・トゥッテ』のフェランド、『フィデ
リオ』のヤッキーノ、スカララッティ『グリゼルダ』のコッラード役で出演。

現在までリサイタル32回を数え、レコード・CDも多数リリース、またテレビ、FM等にも度々出演している。

1970年東京芸術大学バッハ・カンタータ・クラブの創設に携わり、多くの後進を育てると共に指揮者としての
活動を開始。以後40年以上に亘って主に宗教曲の演奏に冴えをみせ、そのいずれもが名演の誉れ高い。特に盛岡
バッハ・カンタータ・フェライン、仙台宗教音楽合唱団、岡山バッハ・カンタータ協会等を率いての20数回に亘
るヨーロッパ公演では『シュツ、バッハの世界的担い手』とした最大級の賛辞が新聞各紙に掲載され、1993年
のヴィンシャーマンとの『マタイ受難曲』では、『マタイ演奏史上、最も特筆されるべき演奏の一つ』、また1995
年のJ.ツィルヒ指揮ニュルンベルク交響楽団との『天地創造』では『音楽と言葉との見事なまでの融合』とその
音楽作りが絶賛された。

1987、88年には、リリング音楽監督のバッハ・アカデミーにてTen.マスタークラスの講師を務め、またコダー
イ・サマースクールや古楽サマースクール等でも指導講師に招かれるなど、その指導力については世界的に定評が
ある。門下生として世界の歌劇場で活躍する国際的歌手、オラトリオ・リート歌手、大学教授等音楽指導者を多
数輩出しており、またコンクール優勝者等も数多い。

1994年長年にわたる顕著な演奏・教育の業績に対し、第47回岩手日報文化賞（学芸部門）が贈られ、2011年
には日独交流150周年を記念して、ドイツ大使館より日独友好賞（功労賞）が授与された。

現在、岩手大学教育学部名誉教授、及び東北文化学園大学特任教授。二期会会員。日本声楽発声学会副会長、
日本音楽表現学会会長諮問委員、仙台バッハ・アカデミー及び盛岡市文化振興事業団理事。盛岡バッハ・カンター
タ・フェライン、仙台宗教音楽合唱団、岡山バッハカンタータ協会、東京21合唱団、東北大学混声合唱団、岩手
大学合唱団、各指揮者、山響アマデウスコア音楽監督。二期会バッハ・バロック研究会講師。



オルガン

劔持 清之

国立音楽大学卒業。チェンバロを西川清子、水野均、岡田龍之介の各氏に師事。

各地の演奏会に出演しバロック奏者との共演や、佐々木正利、小原浄二、岩城宏之、H.J.ロッチュ、H.ヴィンシャーマン各氏指揮のバッハ「カンタータ」「ロ短調ミサ曲」「ヨハネ受難曲」「マニフィカート」等の通奏低音で、アンサンブル経験を深める一方チェンバロリサイタル、デュオコンサート等で活動。フランス、ドイツ公演など海外でも演奏を行なう。

盛岡大学短期大学部教授。岩手県立大学非常勤講師。



合 唱

盛岡バッハ・カンタータ・フェライン



1977年「カンタータを歌う会」として発足。以来、一貫してJ.S.バッハの作品を中心としたドイツ・バロック合唱曲の研究、演奏を行っている。指揮者、佐々木正利のドイツ・バロック音楽に対する卓越した見識に基づく、熱意溢れる指導により「言葉が生きて音楽が生きて」とは歌の世界では同義語である」という音楽信条が演奏上の身上となっている。ヴィンシャーマン、ロッチュ、マズア、リリング、岩城宏之等世界的指揮者との共演を重ね、ドイツ・バロック音楽を音楽的かつ人間的に表現できる合唱団として熱い評価を得るようになった。昨年「ヨハネ受難曲演奏会」で40周年を迎えた。

【ソプラノ】

○ 赤塚 温子	石川 夕夏	● 太田 彩里	大矢 克子	岡野美映子	小川 牧子
小田島沙英	熊谷 充代	昆 千晶	斎藤 純子	佐藤 澄江	田村 広子
● 芳賀 志歩	花立由紀子	日比野夕李	藤原 弘子	藤原 優花	真下 祐子
本良いよ子					

【アルト】

○ 在原 泉	一井 彩来	伊藤 京花	☆ 小川 暁美	小川 暁子	小山内葉子
金子 千鶴	桐原 絹子	高橋 知子	○ 田口千紗都	千葉 春奈	続石真奈美
檜山 奏子	平井 良子	藤澤 久子	藤代 伸子	● 本田 奏子	三宅真佐子
茂木 容子	● 遊佐 紘子	渡辺しをり			

【テノール】

伊藤 陽平	小川 隆弘	小山内 薫	* 河原 清	● 佐々木 駿	☆ 佐々木幹雄
● 田邊 尚人	千葉 圭悟	○ 西野 真史	藤澤 健	○ 吉村 哲	

【バス】

☆ 小原 一穂	○ 小菅 悠樹	○ 佐藤 和久	鈴木 集	高橋 聡	芳賀 郁夫
松橋 清	渡辺 修身				

【指揮者】佐々木正利 【伴奏者】柿崎 倫史、高橋 知子、千葉 春奈

☆…コンサートマスター / ミストレス

○…パートリーダー ●…サブパートリーダー

(*: 仙台宗教音楽合唱団)

鑑賞の手引き

盛岡バッハ・カンタータ・フェライン
コンサートマスター 佐々木幹雄

本日演奏する楽曲は、ドイツプロテスタント作曲家のモテットです。M.ルター以来ことごとく音楽によって信仰を確かなものにしようとしてきたドイツプロテスタントの作曲家はたくさんいますが、今回はドイツ・バロック音楽の先駆けでもあったH.シュッツ、ロマン派の音楽家F.メンデルスゾーン・バルトルディ、そして音楽史上最大の功績を残したJ.S.バッハの3人の楽曲を取り上げます。これらの楽曲は【歌詞は旧約聖書から】【言語はドイツ語】【二重合唱すなわち八声部編成】【無伴奏あるいは通奏低音程度の器楽伴奏】といった共通点をもっています。プロテスタントの信仰とドイツ語、そして音楽との結びつきを、たっぷりとお楽しみください。

○ハインリッヒ・シュッツ(Heinrich Schütz 1585-1672)

キリスト教の改革、すなわち宗教改革を進めたM.ルター(1483-1546)からほぼ100年後、ドイツのチューリンゲン地方に生まれたシュッツは、若い頃に音楽を学ぶためにヴェネツィアに留学しました(1609年から3年間)。そこで師事したのが、教会における二重合唱によるモテット技法(二つの合唱団同志の、あるいは独唱者群と合唱団の間での対話的、対比的な交唱の様式)を完成させたジョヴァンニ・ガブリエーリ(1557-1612)でした。

シュッツはそこで学んだ音楽の様式を、1619年に「作品2」として出版します。《ダビデ詩篇曲集 Psalmen Davids》です。これは全部で26曲からなり、いずれも旧約聖書の詩篇(イスラエルの王ダビデが作ったと考えられているもの)に二重(三重)合唱で作曲されている曲集です。本日はこの中から3曲を演奏します。いずれも、ドイツ語によって神の御言葉を人々に伝えようとしたルターの思想を音楽において実現したような、言葉が心に響いてくる楽曲です。

《わたしの魂よ、主をたたえよ》詩篇 第103篇の第2～4節

《ダビデ詩篇曲集》の第18曲(SWV 39)です。二群の四部合唱が「わたしの魂よ、主をたたえよ」と繰り返し歌い重ね、その合間にテノールの独唱や四重唱が、主が「わたし」にして下さったことを説きながら歌います。

《目を上げて、わたしは山々を仰ぐ》詩篇 第121篇の全節

《ダビデ詩篇曲集》の第10曲(SWV31)です。4パートそれぞれの独唱や四重唱が先導し、二重合唱が続いて歌う、という構成が繰り返されます。主なる神への個人的な信頼、信仰が歌詞のテーマです。

《主に向かって新しき歌を歌え》詩篇 第98篇の全節と小栄唱

《ダビデ詩篇曲集》の第14曲(SWV35)です。新年あるいはクリスマスの機会のための作品らしい、華やかな雰囲気になっています。全編が二群の四部合唱から成っています。情景を表す言葉の内容を具象的に音楽化しつつドイツ語の意味を明確に伝えるように作曲されています。

○フェリックス・メンデルスゾーン・バルトルディ (Felix Mendelssohn-Bartholdy 1809-1847)

J.S.バッハ作曲の忘れられていた《マタイ受難曲》をおよそ100年後に復活蘇演し、「バッハ・ルネサンス」のきっかけをつくったメンデルスゾーンは、協奏曲やピアノ曲がよく知られていますが、バッハに習いながらも新しい響きをもつ宗教声楽曲も数多く作曲しています。

《主は御使いに命じて》詩篇 第91篇 第11～12節

無伴奏で、二重合唱というよりも混声四部合唱の各パートが2パートに分かれての混声八部合唱の様式で作曲されています。もともとはオラトリオ《エリア》(op. 70)の中の1曲で器楽伴奏付きでしたが、無伴奏で単独で演奏できるようにメンデルスゾーン本人によって編曲されたものです。主なる神の愛に満ちた楽曲です。

《なにゆえ、国々は騒ぎ立ち》詩篇 第2篇の全節と小栄唱 作品78の1

1843年の12月、ベルリン大聖堂合唱団のために5日間にかきあげた楽曲です。詩篇 第43篇、22篇とともに《3つの詩篇》(op. 78)として出版されています。主に逆らう者たちに対する力強い神のあり様が劇的な音楽で表現されます。最後は四重唱と斉唱の呼びかけ合いによって主に従うことの幸いが歌われ、穏やかな音楽となって終わります。その後、カノン風の「グローリア」(小栄唱)により主を賛美します。

《ドイツ語典礼》より《主よ 憐れみたまえ》《いと高きところには神に栄光が》

1846年に作曲されたドイツ語による、いわゆる「キリエ」と「グローリア」です。ラテン語よりも人々にとって理解しやすい言語であるドイツ語を歌詞とすることにより、礼拝において主なる神を賛美するミサ曲の歌詞の内容を明確に伝えようとしたものでしょう。M.ルター以来のプロテスタント音楽の伝統が結実したものと言えます。

《主に向かって新しき歌を歌え》詩篇98篇の全篇 作品91

1844年1月1日にベルリン大聖堂で初演され、没後の1851年に出版されました。全体は3部構成で、第1部は第1バスの先唱により新年らしく華やかに始まります。第2部ではアンダンテ・コン・モートとなりオルガン伴奏が始めは静かに次第に激しく鳴ります。第3部では冒頭の主題が再び戻ってきますが、今度は華やかなオルガンが伴います。ちなみに作曲された際には大きなオーケストラによる伴奏としてかかれた作品です。

○ヨハン・ゼバスティアン・バッハ(Johann Sebastian Bach 1685-1750)

いよいよJ.S.バッハの登場です。バッハによるモテットはカンタータほどは残されていません。それは「モテット」というジャンルそのものが18世紀にはすでに衰退していたからです。しかし、私たち盛岡バッハ・カンタータ・フェラインでも過去何度か取り上げてきましたが、バッハが残したモテットはいずれも名曲ですね。

《主を頌めまつれ、もろもろの異邦人よ》詩篇177篇の全節 BWV 230

通奏低音付きの四部合唱という、二重合唱が多いバッハのモテットとしてはめずらしい編成で作曲されています。短いテキストながら、心躍る「賛美」や長く続く「永遠」、そして躍動する「ハレルヤ」など、歌詞の世界を見事に音楽化しています。

《恐るるなかれ、われ汝とともにあり》 BWV 228

前半は「恐れることはありません！」と神が私たちに温かく呼びかける二重合唱で始まります。歌詞はイザヤ書 第41章の第10節です。後半は四部合唱となり、イザヤ書 第43章の第1節が半音階的な旋律の下声部にのせて繰り返し唱えている間に、主なる神と私とが一体となる喜び（P.ゲールハルトのコラール(1653)第11、12節）をソプラノが歌い、最後に再び神の言葉で締めくくられます。

《主に向かって新しき歌を歌え》 BWV 225

後年、モーツァルトがライプツィヒを訪れた際に聴いて感激したという逸話が残されているモテットです。前半は三拍子です。輝かしい響きの中で、詩篇第149篇の全節を、新しい歌を捧げる人々の喜びや躍動を伴って表現されます。中間部では一方の合唱が会衆歌であるコラール(J.グラーマンのコラール(1530)第3節)にのせて人生の空しさを歌い、もう一方の合唱は主に依り頼む願いを由来不明のアリアの歌詞で歌います。最後は詩篇第150篇の全節をもって力強く主を賛美しながら、二重合唱から四部合唱になり、「アレルヤ」で締めくくられます。

歌詞対訳

-H.シュッツ作曲-

“Lobe den Herrn, meine Seele” Der103. Psalm

「わたしの魂よ、主をたたえよ」

Lobe den Herrn, meine Seele,
und vergiß nicht, was er dir Guts getan hat.
Der dir alle deine Sünde vergibet,
und heilet alle deine Gebrechen.
Der dein Leben vom Verderben erlöstet,
der dich krönet mit Gnad und Barmherzigkeit.

わたしの魂よ、主をたたえよ。
主の御計らいを何ひとつ忘れてはならない。
主はお前の罪をことごとく赦し
病をすべて癒し
命を墓から贖い出してくださる。
慈しみと憐れみの冠を授け

“Ich hebe meine Augen auf zu der Bergen” Der121. Psalm

「目を上げて、わたしは山々を仰ぐ」

Ich hebe meine Augen auf zu den Bergen
von welchen mir Hülfe kömmet.
Meine Hülfe kömmt vom Herren,
der Himmel und Erde gemacht hat.
Er wird dein Fuß nicht gleiten lassen
und der dich behütet, schläft nicht.
Siehe, der Hüter Israel
schläft noch schlummert nicht.
Der Herr behüte dich,
der Herr ist dein Schatten über deiner rechten Hand,
daß dich des Tags die Sonne nicht steche,
noch der Monde des Nachts.
Der Herr behüte dich für allem Übel.
Er behüte deine Seele
Der Herr behüte deinen Ausgang und Eingang
von nun an bis in Ewigkeit.

目を上げて、わたしは山々を仰ぐ。
わたしの助けはどこから来るのか。
わたしの助けは来る
天地を造られた主のもとから。
どうか、主があなたを助けて
足がよろめかないようにし
まどろむことなく見守ってくださるように。
見よ、イスラエルを見守る方は
まどろむことなく、眠ることもない。
主はあなたを見守る方
あなたを覆う陰、あなたの右にいます方。
昼、太陽はあなたを撃つことがなく
夜、月もあなたを撃つことがない。
主がすべての災いを遠ざけて
あなたを見守り
あなたの魂を見守ってくださるように。
あなたの出で立つのも帰るのも
主が見守ってくださるように。
今も、そしてとこしえに。

“Singet dem Herrn ein neues Lied” Der 98. Psalm
「主に向かって新しき歌を歌え」

Singet dem Herrn ein neues Lied, denn er tut Wunder.
Er sieget mit seiner Rechten und mit seinem heiligen Arm,
Der Herr lässet sein Heil verkündigen;
vor den Völkern läßt er seine Gerechtigkeit offenbaren.
Er gedenket an seine Gnade und Wahrheit dem Hause Israel.
Aller Welt Enden sehn das Heil unsers Gottes.

Jauchzet dem Herrn alle Welt; singet, rühmet und lobet!
Lobet den Herren mit Harfen und mit Psalmen!
Mit Drommeten und Posaunen jauchzt vor dem Herrn,
dem Könige!

Das Meer brause und was darinnen ist,
der Erdboden und die drauf wohnen.
Die Wasserströme frohlocken
und alle Berge seien fröhlich
vor dem Herrn;
denn er kommt, das Erdreich zu richten.
Er wird den Erdboden richten mit Gerechtigkeit,
und die Völker mit Recht.

Ehre sei dem Vater und dem Sohn,
und auch dem heiligen Geiste,
wie es war im Anfang, jetzt und immerdar
und von Ewigkeit zu Ewigkeit, Amen.

新しい歌を主に向かって歌え。
主は驚くべき御業を成し遂げられた。
右の御手、聖なる御腕によって
主は救いの御業を果たされた。
主は救いを示し
恵みの御業を諸国の民の目に現し
イスラエルの家に対する
慈しみとまことを御心に留められた。
地の果てまですべての人は
わたしたちの神の救いの御業を見た。
全地よ、主に向かって喜びの叫びをあげよ。

歓声をあげ、喜び歌い、ほめ歌え。
琴に合わせてほめ歌え
琴に合わせ、楽の音に合わせて。
ラッパを吹き、角笛を響かせて
王なる主の御前に喜びの叫びをあげよ。
とどろけ、海とそこに満ちるもの
世界とそこに住むものよ。
潮よ、手を打ち鳴らし
山々よ、共に喜び歌え
主を迎えて。
主は来られる、地を裁くために。
主は世界を正しく裁き
諸国の民を公平に裁かれる。

栄光が御父と御子、
そして聖霊とにありますように。
始めにそうであったように、今も、いつも
世々に至るまで。アーメン。

-F.メンデルスゾーン作曲-

“Denn er hat seinen Engeln befohlen” Der 91. Psalm
「主は御使いに命じて」

Denn er hat seinen Engeln befohlen über dir,
daß sie dich behüten auf allen deinen Wegen,
daß sie dich auf den Händen tragen
und du deinen Fuß nicht an einen Stein stoßest

主はあなたのために、御使いに命じて
あなたの道のどこにおいても守らせて下さる。
彼らはあなたをその手にのせて運び
足が石に当たらないように守る

“Warum toben die Heiden” Der 2. Psalm
「なにゆえ、国々は騒ぎ立ち」

Warum toben die Heiden,
und die Leute reden so vergeblich?
Die Könige im Lande lehnen sich auf,
und die Herrn ratschlagen miteinander
wider den Herrn und seinen Gesalbten?
Laßt uns zerreißen ihre Bande,
und von uns werfen ihre Seile!
Aber der im Himmel wohnet, lachet ihrer,
und der Herr spottet ihrer.
Er wird einst mit ihnen reden in seinem Zorn.
und mit seinem Grimm wird er sie schrecken.
Aber ich habe meinen König einge eingesetzt
auf meinem heiligen Berge Zion.
Ich will von einer solchen Weise predigen,
Daß der Herr zu mir gesagt hat:
Du bist mein Sohn!
Heute hab ich dich gezeuget;
Heische von mir, so will ich dir die Heiden zum
Erbe geben
und der Welt Ende zum Eigentum.
Du sollst sie mit eisernem Zepter zerschlagen,
wie Töpfe sollst du sie zerbrechen,
So lasset euch nun weisen, ihr Könige,
und lasset euch züchtigen, ihr Richter auf Erden.
Dienet dem Herrn mit Furcht
und freuet euch mit Zittern!
Küsst den Sohn, daß er nicht zürne,
und ihr umkommet auf dem Wege
denn sein Zorn wird bald anbrennen,
Aber wohl allen, die auf ihn trauen.

なにゆえ、国々は騒ぎ立ち
人々はむなしく声をあげるのか。
なにゆえ、地上の王ははむかい
支配者は結束して
主に逆らい、主の油注がれた方に逆らうのか
「我らは、枷^{かせ}をはずし縄を切って投げ捨てよう」と。
しかし、天に住まう方は彼らを笑い、
主は彼らを嘲る。
彼は怒りを以て次のように宣言し
その憤怒は彼らを恐れさせることになるだろう
「聖なる山シオンで私は私の王たちを即位させた。」
主の定められたところに従ってわたしは述べよう。
主はわたしたちに告げられた
「お前はわたしの子
今日、わたしはお前を生んだ。
求めよ。わたしは国々をお前の嗣業^{しぎょう}とし
地の果てまで、お前の領土とする。
お前は鉄の王笏で、打ち壊すだろう
つぼを割るように砕く。」
すべての王よ、今や目覚めよ。
地を治める者よ、諭しを受けよ。
畏れ敬って、主に仕え
おののきつつ、喜び躍れ。
子に口づけせよ
主の憤りを招き、道を失うことのないように。
主の怒りはまたたくまに燃え上がる。
いかに幸いなことか
主を避けどころとする人はすべて。

Kyrie eleison
主よ、憐れみたまえ

Ehre sei Gott in der Höhe
いと高きところには神に栄光が

Kyrie eleison,
Christe eleison,
Kyrie eleison.

主よ、憐れんでください。
キリスト、憐れんでください。
主よ、憐れんでください。

Ehre sei Gott in der Höhe
und Friede auf Erden und den Menschen ein
Wohlgefallen!
Wir loben dich, wir benedien dich,
wir beten dich an, wir preisen dich,
wir sagen dir Dank
um deiner großen Herrlichkeit.
Herr, Gott! Himmlischer König! Allmächtiger Vater!
Herr, du eingeborner Sohn, Jesus Christus,
Herr, Gott, du Lamm Gottes, Sohn des Vaters!
Der du die Sünden der Welt trägst,
Erbarme dich unser!
Herr, Gott! Der du die Sünden der Welt trägst,
nimm an unser Gebet.
annehmen
Der du sitztest zur Rechten des Vaters,
Erbarme dich unser!
Denn du allein bist heilig,
denn du allein bist der Herr,
du allein bist der Allerhöchste,
Jesus Christus
mit dem heiligen Geiste
in der Herrlichkeit Gottes, des Vaters.
Amen!

いと高きところには、神に栄光が、
地上では善意の人びとに平和がありますように
われらはあなたをたたえ あなたを祝し
あなたをおがみ あなたをあがめます。
われらはあなたに感謝を捧げます、
そのおおいなる栄光ゆえに。
神なる主、天の王、全能の父なる神よ。
主なるひとり子イエス・キリストよ、
主なる神、神の子羊、御父の御子よ。
世の罪をとりのぞかれる方よ、
われらを憐れみください。
世の罪を取りのぞかれる方よ、
われらの哀願をお聞きいれください。
御父の右にすわっておられる方よ、
われらを 憐れみ下さい。
なぜなら あなただけが聖なる方であり
あなただけが主であり
あなただけが至高なる方だからです。
イエス・キリストよ。
聖霊とともに
父なる神の栄光のうちに。
アーメン[そうでありますように]。

“Singet dem Herrn ein neues Lied” Der 98. Psalm 「主に向かって新しき歌を歌え」

Singet dem Herrn ein neues Lied, denn er tut Wunder.
Er sieget mit seiner Rechten und mit seinem Heiligen Arm,
Der Herr läßt sein Heil verkündigen;
vor den Völkern läßt er seine Gerechtigkeit offenbaren.
Er gedenket an seine Gnade und Wahrheit dem Hause Israel.
Aller Welt Enden sehn das Heil unsers Gottes.
Jauchzet dem Herrn alle Welt.
--- singet, rühmet und lobet!
Lobet den Herrn mit Harfen!
--- mit Harfen und mit Psalmen!
Mit Trompeten und Posaunen jauchzt vor dem Herrn,
dem Könige!
Das Meer brause und was darinnen ist,
der Erdboden und die darauf wohnen.
Die Wasserströme frohlokken und alle Berge seien fröhlich
vor dem Herrn;
denn er kommt, das Erdreich zu richten.
Er wird den Erdkreis richten mit Gerechtigkeit,
und die Völker mit Recht.

Ehre sei dem Vater und dem Sohn,
und auch dem heiligen Geiste,
wie es war im Anfang, jetzt und immerdar
und von Ewigkeit zu Ewigkeit, Amen.

新しい歌を主に向かって歌え。
主は驚くべき御業を成し遂げられた。
右の御手、聖なる御腕によって
主は救いの御業を果たされた。
主は救いを示し
恵みの御業を諸国の民の目に現し
イスラエルの家に対する
慈しみとまことを御心に留められた。
地の果てまですべての人は
わたしたちの神の救いの御業を見た。
全地よ、主に向かって喜びの叫びをあげよ。
歓声をあげ、喜び歌い、ほめ歌え。
琴に合わせてほめ歌え
琴に合わせ、樂の音に合わせて。
ラッパを吹き、角笛を響かせて
王なる主の御前に喜びの叫びをあげよ。
とどろけ、海とそこに満ちるもの
世界とそこに住むものよ。
潮よ、手を打ち鳴らし
山々よ、共に喜び歌え
主を迎えて。
主は来られる、地を裁くために。
主は世界を正しく裁き
諸国の民を公平に裁かれる。
栄光が御父と御子、
そして聖霊とにありますように。
始めにそうであったように、今も、いつも
世々に至るまで。アーメン。

-J.S.バッハ作曲-

“Lobet den Herrn, alle Heiden”

「主を頌めまつれ、もろもろの異邦人よ」

Lobet den Herrn, alle Heiden,

und preiset ihn, alle Völker!

Denn seine Gnade und Wahrheit

waltet über uns in Ewigkeit,

Alleluja.

すべての国よ、主を賛美せよ。

すべての民よ、主をほめたたえよ。

主の慈しみとまことはとこしえに

わたしたちを越えて力強い。

ハレルヤ。

“Fürchte dich nicht, ich bin bei dir”

「恐るるなかれ、われ汝とともにあり」

Fürchte dich nicht, ich bin bei dir;

weiche nicht, denn ich bin dein Gott.

ich stärke dich, ich helfe dir auch,

ich erhalte dich durch die rechte Hand meiner

Gerechtigkeit.

Fürchte dich nicht, denn ich habe dich erlöst.

ich habe dich bei deinem Namen gerufen.

恐れることはない、わたしはあなたと共にいる神。

たじろぐな、わたしはあなたの神。

勢いを与えてあなたを助け

わたしの救いの右の手であなたを支える。

恐れるな、わたしはあなたを贖う。

わたしはあなたの名を呼ぶ。

Herr, mein Hirt, Brunn aller Freuden,

du bist mein, ich bin dein,

niemand kann uns scheiden.

Ich bin dein, weil du dein Leben

und dein Blut mir zugut

in den Tod gegeben.

Du bist mein, weil ich dich fasse

und dich nicht, o mein Licht,

aus dem Herzen lasse.

Laß mich, laß mich hingelangen,

da du mich und ich dich

lieblich werd umfassen.

主よ、我が羊飼いよ、全ての喜びの泉よ、

あなたは私のもの、私はあなたのもの、

だれも私たちを引き離すことはできません。

私はあなたのもの、

なぜならあなたはあなたの命と

あなたの血を私に善きものとして

死を通して与えて下さったのですから。

あなたは私のもの、なぜなら私はあなたを抱き

あなたを、おお私の光よ、

心から離すことはありません。

私に、成就させて下さい、

そこであなたが私を、私があなたを

愛しく抱き合いますことを。

“Singet dem Herrn ein neues Lied” 「主に向かって新しき歌を歌え」

Singet dem Herrn ein neues Lied, denn er tut Wunder
die Gemeinde der Heiligen sollen ihn loben.
Israel freue sich des, der ihn gemacht hat.
Die Kinder Zion sein fröhlich über Könige,
sie sollen loben seinen Namen im Reigen.
mit Pauken und Harfen sollen sie ihm spielen.

Wie sich ein Vat'r erbarmet
Gott, nimm dich ferner unser an,
über seine Junge Kinderlein,
so tut der Herr uns allen,
so wir ihn kindlich fürchten rein.
Er kennt das arm Gemächte,
Gott weiß, wir sind nur Staub,
denn ohne dich ist nichts getan
mit allen unsern Sachen;
gleichwie das Gras vom Rechen,
ein Blum und fallend Laub!
Der Wind nur drüber wehet,
so ist es nicht mehr da.
Drum sei du unser Schirm und Licht,
und trügt uns unsre Hoffnung nicht,
so wirst du's ferner machen.
Also der Mensch vergehet,
sein End das ist ihm nah.
Wohl dem, der sich nur steif und fest
auf dich und deine Huld verläßt.

Lobet den Herrn in seinen Taten,
lobet ihn in seiner großen Herrlichkeit !
Alles, was Odem hat, lobe den Herrn
Halleluja !

新しい歌を主に向かって歌え。
主の慈しみに生きる人の集いで賛美の歌をうたえ。
イスラエルはその造り主によって喜びを祝い
シオンの子らはその王によって喜び躍れ。
踊りをささげて御名を賛美し
太鼓や豎琴を奏でてほめ歌をうたえ。

父が憐れむように…
神よ、これからも私たちを顧みていてください、
…彼の幼子を、
そのように、主は私たちに全てをなさいます
そのように、私たちは幼子のように純粋に畏れるのです。
彼は知っています、私たちは貧しく造られたもの
神は知っておられます、
私たちは塵にすぎないことを、
なぜなら、あなた無しには成しえませんが
全ての私たちの事を。
熊手に掃かれる草のようなものであることを、

花や落ち葉のようなものであることを。
風がただあちらに吹くだけで
そこに、何も残りはしません。
ゆえに私たちの傘となり光となってください、

そして私たちの希望が私たちを欺くことなく
これからずっと先もそのようにして下さいま
すように。
そのように人も死にゆき
その最後、それはもう間近なのです。
幸いあれ、ただひたすらに堅くしっかりと
あなたとあなたの恩寵に信頼をおく人には。

力強い御業のゆえに 神を賛美せよ。
大きな御力のゆえに 神を賛美せよ。
息あるものはこぞって 主を賛美せよ。
ハレルヤ。

『フェラインのフレキシビリティ』

佐々木正利

みなさま、こんにちは。指揮者の佐々木正利です。本日は、私たち盛岡バッハ・カンタータ・フェライン（以下、フェラインと略）の41年目演奏会にようこそおいでくださいました。衷心より御礼申し上げます。

思えば昨年、フェラインは創立40周年を記念して『ヨハネ受難曲演奏会』を開催し、多くの方々から激励のお声を頂戴しました。本当にみなさまに励まされ、見守られてこの40年、音楽活動が続けてこられたと思います。ありがとうございました。

フェラインは、まったくもって私たちの独りよがりで始めた活動でしたが、いつの間にやら周りの方々の温かい理解と後押しの声にほだされて、実にいろいろな分野、作品に取り組むようになり、ことバッハの珠玉の宗教作品に留まらず、そのレパートリーをどんどん増やしてまいりました。時代的にもルネサンスのポリフォニーから、バロックのカンタータ、古典派のオラトリオ、ロマン派のミサ曲までと幅を広げ、ついには大中寅二の日本語によるキリエやメンデルスゾーンやシューマンの世俗曲、そしてベートーヴェンの第九やマーラーの復活交響曲、そうそうメンデルスゾーンといえは4年前に大曲『パウロ』、そして2年前にはプラームスの『ドイツ・レクイエム』にも挑戦し、震災追悼の敬虔な演奏を繰り広げたのは記憶に新しいところです。

そうしたフェラインですが、実は私の心の根底には、バッハを中心としたドイツ・プロテスタントの音楽がフェラインにはふさわしいという気持ちがずっと流れ続けています。その意味では、今夕のプログラムはまさにそれを反映したものになっていますが、久方ぶりにアカペラの、しかも二重合唱を中心としたプログラミングに、会員のみなさんも苦戦した模様です（フェラインは合唱団ですが、もともと「バッハのカンタータを歌う会」として発足しましたので、メンバーは団員とは呼ばずに、会員と呼んでいます）。なぜに苦勞したかといえは、ことは簡単、以下の特徴に弾き返される様相が、嫌が応にも練習で繰り返されたからです。

一つは、決して多くはない会員（実質、ステージに乗ったのは60余名）を二つに分けての二重合唱は、責任あるパート担いを完遂するに相当の歌唱力が求められること。

二つは、ソロのアリアとかオーケストラの間奏等が一切なく、全編通じて合唱で音楽が織り成されるゆえ、声のスタミナが要求されること。

三つは、取り上げた曲のすべてがドイツ語であり（メンデルスゾーンの「キリエ」はラテン語だが、ドイツ式発音を採用）、ひょっとしたなら他の市民合唱団の方々よりフェライン会員は慣れているかなとはいっても、所詮は外国語であり、その発音、ニュアンス等々にたくさんの学習と練習が必要だったこと。

そして最後に、全体のストーリー性とか、特徴的な魅力溢れる音楽が突出してあるわけでもなく、どちらかというと地味な楽曲のオンパレードであること。

こうした高いハードルを前にしても会員は怯むことなく、今日まで懸命に目指す音楽表現に達しようと、懸命に努力を重ねてまいりました。もし、演奏に大きな不具合が生じたとしても、それはすべて私に責任があることであり、これまでの練習過程において、私には、指揮者から与えられた楽曲を一心不乱に取り組む姿勢、その一途さを会員に顕著に見て取ることができ、それだからこそなおさらのこと、私ももっと^{りはっ}惻発にならないといけな
いと反省しています。

さてここで、この40年来のフェラインの活動を振り返ってみますに、私の中に微妙な心境の変化といいますか、感じ方、考え方の変遷があったように思えます。それは、やはり選曲を中心とした活動のあり方に関することなのですが、その活動の自身の動機付けについては、次の5つの要因に分類することができると思います。

- (a)「自分がやりたいことをやりたいようにやる」
- (b)「自分からやりたいと進んで思ったわけではないが、フェラインのためと思ってやる」
- (c)「やりたいというよりやるべきだと思い、やる」
- (d)「やったほうがいいかもと思いながらやらない」
- (e)「フェラインのためには何がベストウェイかを探究しつつ、暗中模索に陥る」

自分でも、何が何だか分からなくなりそうな棲み分けですが、それを一つひとつ簡単に紐解いてみましょう。

まずは、(a)「自分がやりたいことをやりたいようにやる」です。

私が31歳でドイツの地から盛岡に帰ってきたとき、5年前に創立され活動を続けていたフェラインの指揮者に、当然のように復帰しました。5年前の創立時には、私は東京芸大の大学院博士課程の学生で、バッハのカンタータを専門に研究していましたから、フェラインのみなさんの希望と合致して指揮者就任をお引き受けしたのですが、その後、私の留学によって、指揮者が蒲生克郷氏に代わっても、フェラインは一貫してバッハのカンタータ研究に勤しんできました。そんなわけでフェラインに戻った私は、カンタータの演奏とともに、その先にあるカンタータの集合体、集大成ともいうべき受難曲やオラトリオ等をやりたいという野望を抱き始めました。それが3年後のバッハ生誕300年という、まことに動機付けとしては恰好の年を迎えて、『ヨハネ受難曲』演奏に舵を切ったのでした。そこからの数年は、私がやりたい曲をフェラインが無条件に受け入れ、後押ししてくれて、バッハやヘンデル、シュッツの楽曲を縦横無尽に取り上げ、複数回に亘るドイツ演奏旅行

も敢行し、幸運にも、現地でも大変な評判を得るなど、言うなればこの頃は、若いフェラインの創生から円熟への転換期だったと思います。このような私の考え、関心は、フェラインで私のやりたいことをやり、フェラインの水準を世界的レベルまで高めることにあった、と言えます。

続いて、(b)「自分からやりたいと進んで思った訳ではないが、フェラインのためと思ってやる」というのはこういった風の吹き回しで生じたことだったのでしょうか。

前段のフェラインは、ほぼ私の目論見通りの成長を遂げ、ここら辺りからフェラインの合唱力の評価がグローバルに高まり、ひいては H.ヴィンシャーマン（ドイツ・バッハゾリステン指揮者）や H.J.ロッチュ（ライプツィヒ、聖トマス教会聖歌隊指揮者）、H.リリング（シュトゥットガルトバッハ合奏団、ゲヒンゲン聖歌隊指揮者）など、世界に名だたるバッハ指揮者のタクトで、バッハの四大宗教曲（マタイ受難曲、ヨハネ受難曲、クリスマス・オラトリオ、ロ短調ミサ曲）をはじめ、昇天祭オラトリオ、マニフィカト等々、フェラインは大曲演奏を次々と担い、最盛期に入りました。しかし、これはフェライン独自の発案、企画ではなく、言うなればオファーによる仕事に類するものであったので、世間の注目度も高く、私への評価もそれらとともに嫌が応にもうなぎのぼり、とても感謝なこととなりました。同時に、選曲に関していえば他からの依頼に完全に従い添うこととなり、常識的にはそれに伴う苦労も倍増すると考えられましたが、フェラインはどんな選曲に直面しても堂に入って慌てず、確実に成果を積み上げていったのでした。ここにおいてフェラインは、一躍グローバルな水準の合唱団の仲間入りを果たしたのです。もっとも、それがフェラインのためになったのかを問われますと、浅識の私は心許ない返事しかできませんが、少なくとも私は、それがフェラインのためと思って引き受け、ともに曲作りに邁進したという自負だけは持っています。

さて、(c)「やりたいというよりやるべきだと思い、やる」というのはこういった活動なののでしょうか。

その一つは、合唱連盟に所属し、連盟の行事に協力しようとしたことが挙げられます。フェラインは、全日本合唱連盟の地方組織である岩手県合唱連盟(小学校とか婦人合唱団体などは加入して いないようですが)に所属していますが、この連盟は、合唱を愛好する様々な分野の合唱団によって組織され、お互いに情報交換や切磋琢磨をし、ともに発展するために、一致協力して合唱の素晴らしさを世に発信する役目を担っています。現在、その活動の最たるものは、コンクールの開催など、全日本合唱連盟関連の企画・運営に関わるものではないのでしょうか。コンクール開催の苦労は、地区大会や全国大会はもとより、県大会ですらいろいろ手間暇がかかり、当日の進行ですら多くの稼働人口を必要とするのですが、フェラインは、その活動の性格上、コンクールに参加することはありませんが、合唱連盟の一員として、その開催に奉仕するために人員を派遣している実績があります。

翻って、演奏の方に目を転じてみますと、やはり公の行事に与する活動になりますが、盛岡市文化振興事業団と、それに付随する市民文化ホールの周年イベントに深く関わったことが挙げられます。クルト・マズア指揮ロンドンフィルの第九、飯森範親指揮東響の復活、ダン・エッティンガー指揮東フィルの第九など、国内外の超一流指揮者、オーケストラとの共演は、絶対にやるべきとの強い思いを関係各位が汲み取ってくれて実現したイベントでした。幸いにも結果を残せたことで主催者の面子を立てることができましたが、私たちにとっても望外の喜びとなった忘れられない活動の一つです。

と、ここまではどちらかというポジティブな要素が強い要因でしたが、残りの二つは若干ネガティブな因子を孕んでいます。次の(d)「やったほうがいいかとも思っていない」は、フェラインの翳^{かげ}りを私的に感じたり、贅沢にもフェラインの認知をもっとアップさせたいと思ったときのお話です。

前段でコンクールのお話に触れました。コンクールは、フェラインの活動理念に照らし合わせてもそれへの出場は馴染まないことは自明ですが、それでも個人的には一度出てみるのも手かな、と思ったことがあるのです。

フェラインはここ40年、おかげさまで順風満帆な活動を続けてこられたと思っていますが、人間というのはとても欲深いもので、ドイツや一流の外来演奏家たちに最大級の評価、称賛をいただけても、フェラインの演奏を聴いたことのない方々には、その存在は中々知られないというジレンマが私を襲いました。正直地団駄を踏んだのは、私たちの努力によってこれだけの実力を備えられるようになり、内外の評価もグローバル基準で認められるようになったフェラインを、例えば全国各地からの転勤等により盛岡に引っ越してこられた合唱人の方々が、私たちの存在をまったく知っておられなかったという事実です。

長いフェラインの歴史の中には、演奏会に人が入らなかったこともありましたが、そんなとき真っ先に思ったのは、フェラインを知ってもらうにはいったいどうしたならいいのだろうということでした。どんなに良い演奏をしても聴いてもらわにゃしょうがない。事実、盛岡コメット合唱団さんは知っていてもフェラインは知らない人に伺ってみたら、知られる要素はコンクールにあったのです。コメットさんは全国大会で素晴らしい成果をお挙げになり、全国の合唱人は「岩手にコメットあり」とは知っていても、「フェラインてなんだ!？」と思われるのがオチ。この一抹の寂しさは何と表現したならいいのでしょうか。さすがに私もちょっぴり落ち込み、心密かに、コンクールに出てみるか、と思ったことがありました。正直、やったほうがいいとマジに思ったのです。でも止めました。周りの人たちから、売名のためにコンクールに出るなんて、コンクールを冒涇していますよ、ましてやフェラインの活動の主旨は競い合うことではないでしょう、ポリシーに悖^{もと}る行為をする、というより考えるだけで嘆かわしいことではありませんか、と諭されたのです。そのときの私は、ただただ恥じ入るばかり、猛省いたしました。

最後に、(e)「フェラインのためには何がベストウェイかを探究しつつ、暗中模索に陥る」とはいったい何のことでしょう。

私は盛岡で、フェラインの他に岩手大学合唱団（以下、岩大合唱団と略）の常任指揮者として活動しています。手前味噌ながら、フェラインも岩大合唱団も演奏の質においては全国区、少なくとも盛岡の合唱団としては顔の一つとしてその存在が認知されているのではないのでしょうか。それにもかかわらず、両団とも私のポリシーがもとにはありませんが、それぞれ独自の活動を展開していて、地域の活性化、合唱交流、水準の向上、市民レベルの愛好者の受け入れに貢献しているとはとても言い難い現状があります。

岩大合唱団は大学の合唱団ですから、岩手大学に籍がなければ入団はできませんが、フェラインは誰でも入会できるはずです。でもフェラインは、普通の合唱愛好家のみなさんには敷居が高いと言われています。なぜなら、取り組む楽曲が宗教曲が中心で、しかも外国語（主にドイツ語）、そして求められる音楽のレベルが半端ないからだそうです。確かにこれらは当たっていますが、だからといってフェラインの活動理念を根幹から変えるわけにはいきません。しかし私は、そうした状況下にあって考えたことがあるのです。その考えはフェラインをスクラップにし、新たなビルドを形成しようとするものにつながるかもしれないので、大変危険極まりないものだったのですが、私はフェラインを市民合唱団にしようと思ったことがあるのです。

中核都市盛岡には市民合唱団として認知されている合唱団はありません。かつては（私が中学生のとき）、NHK盛岡放送合唱団（現北声会合唱団）が市民合唱団的存在として親しまれていましたが、現在は先のコメット合唱団を筆頭に、様々な合唱団がそれぞれ独自に充実した活動を行っておられるものの、リンカーンの言い方をもじれば、「市民の、市民による、市民のための合唱団」というものは、広義的にも存在しないと言ってよいのではないのでしょうか。さればフェラインを市民合唱団に！いや、さすがにそれは無理がありました。時代の流れ、ニーズに即してその都度決断し、レパートリーを発展、変遷させてきたフェラインも、やはり会員のみなさんがここでしかできないと慕い焦がれる楽曲を、180度回転させた選曲や活動形態に転換するには、一旦フェラインを解散するか、あるいはフェラインとは別の合唱団を新たに立ち上げるしか、私たちには方法がないという結論に達さざるを得ないと思いました。そこに至る決断をするには、最大級の迷い、痛みを伴う模索が続きます。果たしてこの模索が必要なのか、妥当なのか。これは私の死後まで続く課題だと思っています。

さて、こうしてフェライン40年余の活動の歴史と足跡を辿ってまいりましたが、前行でも触れたように、私ももう66歳（年回りとしては67歳）、そんなに先が長いとは保証されていません。となると、1年1年が貴重な年となり、迷いの数もいや増しに増しますが、それらをも速やかに解消して、私にとってもフェラインにとっても充実した日々を送れるよう、会員相互の対話と気持ちを重視し、確固たる絆を構築していかなければなりません。

その意味で今回は原点復帰を果たそうとしましたが、そこから見える景色が40年前とどのように違うのかを体験、検証し、次へのステップを確実に踏み出さねばならないと思っています。

最近、とても嬉しいことに、会員の中から「佐々木の指揮で是非マタイを歌いたい」という声が上がってきています。私は歌手として『マタイ受難曲』を国内外問わずに十数回歌っていますし、また全曲指揮も二回やっていますが、確かにフェラインを振ったことはありません。ですから次なる目標は、2年後の2020年1月か2月にマタイをやる予定です。

世界の音楽史に残る偉大な作曲家、故武満徹さんが生前言っていた言葉、もしあなたが離れ孤島に一人送られそこで一生を閉じるとしたなら、何の1曲を持って行きますか？、の問いに答えて「マタイ受難曲」と即答したのは有名な話です。それほどに武満さんは、バッハのマタイ受難曲を深く愛しました。中でも、そのマタイ受難曲の中の一曲であるアリア「憐れみたまえ、我が神よ」を非常に深く愛された武満さん、新しい作品の作曲に取り掛かる際には、作曲を始める前にこのアリアをもう一度聴くのを常としたそうです。奥さまによりますと、武満さんはこのアリアを外に雪が降るその夜一人で聴き、この世を去ったということです。

これほどまでに、この300年にわたって全世界の音楽人を虜にしてきたマタイ。それを行った後、フェラインは次へのステップについて考えようと思っています。

マタイは私とフェラインがやりたいと思ってやろうとしている曲。同時に、私とフェライン両者にためになる曲でもあります。また、今のフェラインにとってはベストウェイな選曲であり、一生に一回は合唱人としてはやるべき曲と言っても過言ではありません。二重の合唱と二つのオーケストラという規模も内容もでかい曲ですから、やったほうがいいけど今はできないとする向きも多々あると思いますが、いつできるかをしっかり探究し、やりたいけどやらないという選択肢を一致協力して向こうへ追いやる努力をしていこうと、今、会員みなさんと語り合っています。

フェラインの今後は、このようにまだまだ先への意欲と理想に燃えていますが、盛衰興亡は世の必定、どのように変化していくのかは誰にも読めません。ですから私たちは、考えられることだけに留まらず、想定外の展開をも視野に入れることに^{しよくもく}囑目して、しっかりと輪を組んで歩んで行きたいと思っています。

フェラインの^{柔 軟 性}フレキシビリティは結構広いよね。偽らざる私の感想です。

(盛岡バッハ・カンタータ・フェライン指揮者 ささき まさとし)

※原稿中のルビは実行委員による

盛岡バッハ・カンタータ・フェライン

活動のあゆみ

1977年に結成以来「J.S.バッハの教会カンタータの研究と演奏を通して音楽芸術を追求する」ことを目的として、これまで活動が続けてきました。主な演奏会と演奏旅行の経過は以下のとおりです。

1977/02	「カンタータを歌う会」として発足	
1977/06	「盛岡バッハ・カンタータ・フェライン」に改称	
1978/02	「バッハコンツェルト」 カンタータ45番、147番	指揮：小林道夫（芸大と共演）
1979/10	「BACH ABEND」 カンタータ 158番、131番	指揮：小林道夫
1980/02	「バッハの夕べ」 カンタータ80番	指揮：小林道夫（芸大と共演）
1980/12	この年より「チャリティー・コンサート」を盛岡市内のバロック音楽愛好家グループと共催（～1997）	
1981/07	「BACH ABEND」 カンタータ 195番、182番	指揮：小林道夫
1982/11	「バッハの夕べ」 カンタータ 158番、4番	指揮：佐々木正利
1985/03	J.S.バッハ生誕 300年記念演奏会「ヨハネ受難曲」	指揮：佐々木正利
1985/11	仙台北教会宗教音楽の夕べ「メサイア」 メサイア(G.F.ヘンデル)	指揮：佐々木正利
1985/11	G.F.ヘンデル生誕 300年記念演奏会「メサイア」(G.F.ヘンデル)	指揮：佐々木正利
1986/04	「宗教音楽の夕べ」 ドイツ・レクイエム(H.シュッツ)ほか	指揮：佐々木正利
1986/04	第1回ドイツ演奏旅行 ドイツ・レクイエム(H.シュッツ)ほか	指揮：佐々木正利
1986/07	「東京ゾリステン演奏会」共演 スターバト・マーテル(ペルゴレージ)	指揮：赤松 安
1987/03	創立10周年記念演奏会「カンタータの夕べ」カンタータ34番、70番、102番ほか	指揮：佐々木正利
1987/11	ムシカ・デラルテ・トウキョウ演奏会「バロック音楽の夕べ」(主催)	
1988/03	仙台宗教音楽合唱団との合同演奏会「ミサ曲口短調」	指揮：佐々木正利
1988/09	「今仲幸雄 バリトンリサイタル」(主催)	
1988/11	「ミヒャエル・ショッパーパーバリトンリサイタル」(主催)	
1989/04	「二重合唱の夕べ」 モテット2番、5番(J.S.バッハ)ほか	指揮：佐々木正利
1990/03	仙台宗教音楽合唱団との合同演奏会 クリスマス・オラトリオ4～6部ほか	指揮：佐々木正利
1990/10	「アグネス・ギーベル 佐々木正利 ジョイントリサイタル」(主催)	
1990/12	第2回ドイツ演奏旅行 クリスマス・オラトリオほか	指揮：C.ボッペン、佐々木正利
1991/03	ドイツ演奏旅行帰国演奏会 モテット1、2番(J.S.バッハ)ほか	指揮：佐々木正利
1991/10	「カンタータ第140番、コーヒーカンタータ」	指揮：H.ヴィンシャーマン
1992/03	「バッハとメンデルスゾーンのカンタータの夕べ」カンタータ93番ほか	指揮：佐々木正利
1993/10	「マタイ受難曲」(盛岡、仙台、岡山、東京) マタイ受難曲(J.S.バッハ)	指揮：H.ヴィンシャーマン
1994/07	「カンタータ147番」仙台バッハアカデミーにおいて カンタータ147番	指揮：佐々木正利
1994/12	弘前市民クリスマス：G.F.ヘンデル「メサイア」演奏会に出演	指揮：佐々木正利
1995/04	第3回ドイツ演奏旅行 天地創造(J.ハイドン)ほか	指揮：ヨセフ・ツィルヒ、佐々木正利
1995/08	一関・東日本合唱祭参加 モテット6番(J.S.バッハ)ほか	指揮：佐々木正利
1995/09	剣持清之・トリオフィオリレ「モーツァルト室内楽の夕べ」(主催)	
1995/10	青山町教会チャペルコンサート 天地創造抜粋(J.ハイドン)ほか	指揮：小原一穂
1995/11	「天地創造」(盛岡、仙台)	指揮：岩城宏之
1996/03	「バッハの夕べ」演奏会 カンタータ21,131番、モテット4番	指揮：佐々木正利
1997/04	20周年記念演奏会「昇天祭オラトリオ」「マニフィカト」ほか(J.S.バッハ)	指揮：H.J.ロッチュ、佐々木正利
1998/11	「ヴィンシャーマンの口短調ミサ」演奏会 ミサ曲口短調(J.S.バッハ)	指揮：H.ヴィンシャーマン
1998/12	「盛岡いのちの電話」チャリティーコンサート カンタータ151番、191番、讃美歌数曲	指揮：佐々木幹雄

1999/04	シュッツのダビデ詩篇とバッハ、メンデルスゾーンのモテットの夕べ	指揮：佐々木正利
1999/11	第4回ドイツ演奏旅行 ミサ曲口短調(J.S.バッハ)	指揮：H.ヴァインシャーマン
1999/11	ドイツ演奏旅行 ダビデ詩篇曲3曲(シュッツ)ほか	指揮：佐々木正利
1999/12	「盛岡いのちの電話」 チャリティー・コンサート	指揮：佐々木正利
2000/11	クリスマス・オラトリオ(J.S.バッハ)全曲演奏会	指揮：H.ヴァインシャーマン
2001/03	「盛岡いのちの電話」開局10周年記念 チャリティー・コンサート	指揮：佐々木正利
2001/08	関連団体ドイツ演奏旅行に有志参加 カンタータ39番、102番、158番 ほか	指揮：D.ティム
2001/10	クルト・マズア指揮ロンドンフィル ベートーヴェン「第九交響曲」演奏会	
2002/01	25周年記念演奏会 モテットOp.29,74(ブラームス)ほか	指揮：佐々木正利
2002/10	ライブツィヒ・バロックオーケストラ演奏会 カンタータ45番 ほか	指揮：D.ティム
2002/12	鳴海真希子さん追悼演奏会 ヨハネ受難曲から第39、40曲(J.S.バッハ)	指揮：佐々木正利
2002/12	久慈・こはくのまち第九演奏会 交響曲第9番「合唱」(ベートーヴェン)	指揮：石川善美
2003/11	マタイ受難曲演奏会盛岡公演(ドイツ・バッハ・ゾリステン) マタイ受難曲(J.S.バッハ)	指揮：H.ヴァインシャーマン
2003/12	マタイ受難曲演奏会東京公演(ドイツ・バッハ・ゾリステン)	指揮：H.ヴァインシャーマン
2004/07	関連団体ドイツ演奏旅行に有志参加 カンタータ131番、21番	指揮：D.ティム
2005/01	マルコ受難曲演奏会 カンタータ106番、79番、105番	指揮：佐々木正利
2005/04	シュレスヴィヒ・ホルシュタイン・アカデミー合唱団盛岡公演	指揮：佐々木正利、ロルフ・ベック
2005/12	第5回ドイツ演奏旅行 メサイア/ドイツ語版(ヘンデル)ほか	指揮：G.シュマールフス、
2007/01	ヨハネ受難曲演奏会 ヨハネ受難曲(J.S.バッハ)	指揮：H.ヴァインシャーマン
2007/06	飯靖子・佐々木正利ジョイントリサイタル(主催)	
2007/12	盛岡市民文化ホール開館10周年記念 マーラー「復活」演奏会	指揮：飯森範親
2007/12	台湾「クリスマス・オラトリオ」演奏会 長榮交響楽団：主催	指揮：G.シュマールフス
2008/06	珠玉のカンタータ 〜バッハからの贈り物〜 カンタータ18番、187番、78番、182番	指揮：佐々木正利
2008/12	スイス演奏旅行 マニフィカト(ブクステフーデ)ほか	指揮：佐々木正利
2010/01	リリング・ロ短調ミサ盛岡公演 ミサ曲口短調BWV232(J.S.バッハ)	指揮：H.リリング
2010/10	花巻温泉チャペルコンサート	指揮：佐々木正利
2010/12	東フィル・第九演奏会 交響曲第9番「合唱」(ベートーヴェン)	指揮：D.エッティンガー
2011/06	東日本大震災の犠牲者に捧ぐモーツァルト・レクイエム演奏会	指揮：佐々木正利
2012/02	イタリア・バロックの煌めき キリエ、クレド、マニフィカト(ヴィヴァルディ)ほか	指揮：佐々木正利
2013/01	バッハからの贈り物 珠玉のカンタータ Vol.2 カンタータ4番、93番、161番、102番	指揮：佐々木正利
2013/11	ピアノ2台の伴奏によるドイツ・レクイエム演奏会 ドイツ・レクイエム(J.ブラームス)	指揮：佐々木正利
2014/03	3.11祈りのコンサート「レクイエム」(モーツァルト)	指揮：佐々木正利(他団体と共演)
※この年以降同コンサートに参加。		
2014/11	メンデルスゾーン作曲 オラトリオ「聖パウロ」演奏会	指揮：佐々木正利
2015/04	山形交響楽団 第1回 盛岡演奏会 『アマデウスへの旅』レクイエム(モーツァルト)	指揮：飯森範親
2016/03	東日本大震災 心の復興祈念コンサート(岡山フィル) ドイツ・レクイエム(J.ブラームス)	指揮：H.シェレンベルガー
2017/03	40周年記念演奏会 ヨハネ受難曲(第4稿)(J.S.バッハ)	指揮：佐々木正利

なおこのほかにも、クリスマス・チャリティーコンサート、チャペルコンサート、合唱祭、新春コーラスコンサートなどに参加、出演しています。

内科クリニックすずき

◆診療時間◆

平 日/あさ9:30～
よる7:15

土曜日/あさ9:30～
よる5:15

木曜日/あさ9:30～
ひる1:10

日本内科学会認定内科専門医

■胃腸科■循環器科■アレルギー科■呼吸器科

■神経内科■心療内科■小児科■人間ドック

盛岡市北松園2-15-4(ユニバース隣)

☎ 019 (662) 2888

会 員 募 集

盛岡バッハ・カンタータ・フェラインでは、会員を募集しています。合唱・音楽が好きな方、年齢、経験、学生／社会人問わず歓迎いたします。まずはお気軽に見学にお出てください。

◆練習日時：毎週火曜日 午後6:30～9:00

毎月1回日曜日午後1:30～5:00

◆練習場所：内丸教会（毎週火曜日、日曜はその都度）

（盛岡中央郵便局から与の字橋方向へ、一つ目の信号手前右側角）

◆お問合せ：TEL：019-651-4646 〒020-0877 盛岡市下ノ橋町3-26（佐藤）

E-mail mail@mbkv.jp

HP <http://www.mbkv.jp/>

FB



Twitter



次回演奏会は2020年に予定しております（時期・詳細未定）。演奏する曲は

J.S.バッハ作曲「マタイ受難曲」BWV244です。

バッハ至高の作品に共に取り組んでみようという方は、ぜひ上記までご連絡ください。

内科・循環器科

茂木内科医院

循環器専門医

内科認定医

院長 茂木 格

～～各種検診・予防接種も行っております～～

お気軽にご相談下さい

〒024-0094

岩手県北上市本通り一丁目7-12（さくら野百貨店そば）

TEL 0197-61-0222

FAX 0197-61-0223

演奏会実行委員会組織・協力企業一覧

役 割	氏 名	役 割	氏 名
チーフマネージャー	茂木容子	特別会計	赤塚貴史／小田島沙英
情報宣伝	渡辺しをり／太田彩里／松橋清	Web対応	堀川佑也
フロント	赤塚貴史／大石敦子 堀川佑也／石川純子	チケット	渡辺しをり／昆千晶 伊藤京花／藤原優花
広告	茂木容子／佐藤和久	楽譜	茂木容子
バックステージ	茂木容子／小田島沙英	印刷	太田彩里
ステージマネージャー	加藤進也／田沢隆	支払・精算	藤代伸子／赤塚貴史
レセプション	佐藤和久	渉外	茂木容子／渡辺しをり
ケータリング	岡野美映子／昆千晶／金子千鶴／小笠原香澄		

デザイン	加藤デザイン事務所	印刷	三澤印刷
------	-----------	----	------

金子整形外科医院

院長 金子 洋

整 形 外 科

リウマチ科

外 科

リハビリテーション科

診療時間	月	火	水	木	金	土
8:30 ▼ 12:30	●	●	(●)	●	●	●
14:00 ▼ 18:00	●	●	(●)	●	●	13:00 まで

【休診日】

日曜日・祝日・第2・4水曜日
花巻市石鳥谷町八幡 3-76-5
(石鳥谷中学校前)

TEL.0198-46-2233

2018.4.1

盛岡市民文化ホール（マリオス）大ホール

